

憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改憲阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007
FAX03-3261-5453

2016年10月17日（月）

第677号 本号3頁

速報 市民と野党の共同知事誕生！ 新潟県

新潟県知事選挙で市民と野党共闘の共同候補＝米山隆一知事が誕生しました。米山知事は会見で、「オール新潟の勝利」と語り、県民ばかりでなく、国民全体を激励しています。

NHK世論調査 「改憲必要なし」が「ある」を上回る！

NHKは、今月8日から3日間、全国の18歳以上の男女を対象に世論調査を行いました。調査の対象は1533人で、64%から回答を得ました。そのなかで、憲法改正については、「改憲必要なし」が「ある」を上回っています。

◆今の憲法を改正する必要があるか？

今の憲法を改正する必要があるか？

・改正する必要がある 28% ・改正する必要はない 31% ・どちらともいえない 33%

2008年以來再び、改憲反対が賛成を上回る！

渡辺治一橋大学名誉教授は、この憲法改正反対が上回ったのは、2008年以來だと、先日の「憲法講座」で資料を示し、語られました。渡辺氏は、「2004年4月の読売の世論調査では、改憲に賛成は65%、反対は22.7%だった。3分の2が改憲に賛成しているとして安倍自民党は踏み込んだが、「九条の会」が1年間に2,000もできて、全国津々浦々に広がり、それに応じて世論が大きく変わっていった。マスコミは報道しなかったが、「九条の会」が世論を変えた。ついに、08年4月には改憲賛成42.5%、反対43.1%と逆転してしまい、これでは改憲できないという状況が生れた」。しかし、その後、賛成派が巻き返し、この間は賛成が反対を上回っていたが、「あの読売新聞の3月の世論調査によると、『改正する方がよい』が49%で、『改正しない方がよい』が50%だった。再び賛成を反対が上回った」と話されました。

まさに、今回のNHKの調査も、それを証明しています。なお、産経新聞6月の調査では「憲法改正に「反対」は45.5%で「賛成」の43.3%を上回った」と報道しています。また、朝日新聞5月2日に発表した調査では、「憲法を「変える必要はない」が昨年の調査の48%から55%に増え、「変える必要がある」は昨年の43%から37%に減った」と報道しています。

安倍内閣支持率が何と7ポイント下がる！

また、同調査では、安倍内閣を「支持する」と答えた人は、先月の調査より7ポイント下がって50%、「支持しない」と答えた人は、7ポイント上がって33%でした。

支持する理由は、
・他の内閣より良さそうだから 41% ・実行力があるから 20%
・支持する政党の内閣だから 15%

支持しない理由は、
・政策に期待が持てないから 40% ・人柄が信頼できないから 25%
・支持する政党の内閣でないから 14%

野党4党の衆議院選挙で、連携を続けたほうがよいが多数!

さらに、野党共闘を「続けた方がよい」と回答した方が、「続けない方がいい」と答えた方がより10ポイントと上回っており、野党共闘への期待が高いことを示しています。

◆野党4党の衆議院選挙で、連携を続けたほうがよいと思うか。

- ・今後も続けたほうがよい 30%
- ・今後は続けないほうがよい 20%
- ・どちらともいえない 42%



原発再稼働「反対」が「賛成」の3倍弱!

その他では「TPPを今の国会で承認することへの賛否は？」については、賛成19%、反対17%、どちらともいえない52%でした。また、「原子力発電所の運転再開について」は、賛成16%、反対43%、どちらともいえない34%でした。

憲法改正「ゼロから憲法の議論を行い、合意形成を模索していく」と「慎重姿勢」山口公明党代表

公明党の山口那津男代表は9日放送のラジオ日本番組で、憲法改正について「私が党代表になって5回の国政選挙があった。党所属国会議員がかなり世代交代している。新しい世代も含めて、むしろゼロから憲法の議論を行い、合意形成を模索していく」と「慎重姿勢」を示して見せました。

また、「自民党は立党当初から『押し付けられた憲法だから自主的に憲法を作ろう』という党是で来ており、少し立ち位置が違う。自民党の憲法改正草案を丸ごと我々が認めるということは考えられない」と述べ。さらに、現行憲法を評価した上で必要に応じて条文を加える「加憲」の対象についても「正直に言って、まだ進んでいない。過去にアイデアがいくつかあったが、時間がたった。」と述べました。

そして、「民進党は、代表選の時は3人の候補者が憲法改正を否定しないとはっきり出していたが、(衆院東京10区、福岡6区)補選で共産党とも組もうという段になって腰が引けている。野党共闘のために自らの主張を後退させるのではなく、もっと中長期的な大きな視野で考えるべきだ」と批判しました。

参加団体の仲間、各地で奮闘!

全国商工団体連合会 全国商工新聞(10月17日号)より

熊本 1泊学習会で憲法学習 (天草・濱崎渚通信員)

熊本県婦協は9月3、4日の両日、県婦協1泊学習会を行い、天草民商婦人部から4人が参加しました。阿部ひろみ弁護士が憲法について講演。「現憲法では国民の三大義務があるが、自民党改憲草案では国防の義務、家族助け合いの義務、緊急事態指示服従などで国民の義務が大幅に増えている」など学習し、危険な自民党改憲草案の中身をもっと広げようと決意を固めました。

愛知 他団体とSEALDsの映画上映会 (愛知県連・澤田美奈通信員)

愛知県青協は2日、青年他団体と実行委員会をつくり、映画『わたしの自由について～SEALDs～2015』の上映会を行いました。上映後は「戦争法が強行された時の悔しい思いがよみがえった」「個人として今の政治への怒りをどう伝えるのか工夫が大事と思った」など感想を出し合い交流。山本裕喜県協議長は「今後も青年同士で平和や働き方などの意見交換をしたい」と話していました。

民主青年同盟 民主青年新聞(10月17日号)より

平和の思い高めたピースエッグ 平和委員会

日本平和委員会と青年実行委員会が主催した「Peace Egg 2016」が9月17～19日、大阪府和泉市で開催され全国から集まった青年が平和について考え、話し合いました。1日目はさまざまな分科会が開かれました。分科会で「競争教育の下では、教育の本質が失われてしまう」と話しました。平和とは何かを考える分科会では、参加者が思い描く平和を自由に絵で表現し、交流しました。

2日目は日本平和委員会常任理事の川田忠明さんが講演。川田さんは中国と日本の貿易関係を取り上げ、「武力衝突はお互いに破滅する。憲法前文を基にした対話解決こそが現実的だ」と話しました。参加者は「対話解決はきれいな事だとおもっていたが、それが現実的だと分かり、感銘を受けた」と感想を語りました。最終日に行われた「班宣言」では、平和に対する熱い思いや、これからの行動への意欲などが語られました。

年金者組合 年金者しんぶん (10月15日号) より

戦争と平和を語りつぐ集い開催 東京・小金井支部

東京・小金井支部は8月27日、「戦争と平和を語りつぐつどい」を開催しました。被爆者で地元在住の泉順太郎さんは「私の被爆体験・平和の大切さ」の題で話し、「原爆は人間が尊厳をもって死んでいくことを許さなかった」「核兵器は人間と共存できない」と強調しました。

絵本「くものうえまではないちもんめ」の作者山本嘉子さんは、読み聞かせとスライドを上映、自身の空襲体験から絵本を作ったと話しました。(日々野正彦)

新婦人 新婦人しんぶん (10月13日号より)

鳥取 安保法廃止スタンディング (境港支部 三原由美)

「平和で暮らしよい境港をつくる会」(境港革新懇)が呼びかけ、9月19日16時から市内2カ所でスタンディング。メインボードは、新婦人が担って2枚作成しました。「安保法制は禁止に!!私たちがあきらめない!!」と、今後も使えるように、持ち運びに便利な折りたたみ式。思い思いのプラカードを持って、台風前の雨風の中で総勢22人でアピールしました。新婦人は11人が参加しました。

群馬 市主催の自衛隊体験イベント「やめて」と要請 (藤岡支部 曾根由美子)

生涯学習フェスティバルに市主催の「自衛隊体験イベントコーナー」が設けられることを広報で知り、支部は市長と教育委員会へコーナー設置の取りやめを申し入れ、担当課と懇談しました。

『被災地体験教室』として自衛隊に依頼したが、熊本地震発生のためイベント規模を縮小し、子ども向け制服試着体験と記念撮影、防災パネル展示衛隊の調理鍋で作ったカレーを配布して被災地募金を呼びかけることにしたい」との回答に、「すべて取りやめてもらいたい」と再度要請しました。担当課は「来年度からは取りやめる。制服試着と写真撮影は行わない」と即答しました。

当日は、カレー配布もなくなり、防災パネル展示と自衛隊勧誘パンフ配布のみとなりました。いち早い対応でイベントは縮小されましたが、今後もアンテナを高く張る必要を感じた行動でした。

戦争法強行から13ヵ月目の10月19日、全国各地で取り組みを展開!!

国会前「安倍政権の暴走止めよう!自衛隊は戦地に行くな!10・19国会議員会館前行動」

日時:10月19日(水)18時半～

場所:衆議院第2議員会館前～国会図書館前

主催:戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会